

【授業科目】 助産学実習 Practicum in Midwifery

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
日比 千恵、高塚麻由、野内 香純	4年次 通年	選 択	9	405	実 習	あり	巻末 掲載	否
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>授業概要／周産期における母子とその家族に助産過程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業アイデンティティの形成を図れる素地を養う。ハイリスクな要因を持った産婦への診断と対応、異常分娩時（吸引分娩・帝王切開術等）の診断と対応について学ぶ。地域で活動する助産師の活動（思春期の対象へのケア、産後の子育て支援、助産所活動等）の見学を通して助産師の役割と責任を学ぶ。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／ 助産学実習では分娩介助事例 1 例ごとに記録の提出がある。介助時は分娩介助に立ち会った助産師とともに分娩介助を振り返り、1 例ずつケアを積み重ねていく。記録は分娩後 3 日以内に指導教員に提出し指導を受ける。</p>							
実務経験に 関する授業 内容	産科領域の臨床経験を持つ教員が臨床助産師と協同して、助産師として必要な知識と技術を習得できるよう臨床において指導する。							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「看護の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき看護を実践できる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠に必要な健康診査及び保健指導を実施できる。 2. 産婦・褥婦・新生児およびその家族に助産過程が展開できる。 3. 正常分娩経過をとる産婦の分娩介助ができる 4. 異常の予測および判断ができ、適切な対応について考えることができる。 5. ハイリスクな要因を持った産婦への診断と対応、異常分娩時（吸引分娩・帝王切開術等）の診断と対応について考えることができる。 6. 地域で活動する助産師の活動（思春期の対象へのケア、産後の子育て支援、助産所活動等）の見学を通して助産活動を通して助産師の役割と責任について考え、今後の課題を述べることができる。 							
時間外学習 に必要な 内容・時間	※詳細については、実習要項を参照してください。							
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間は、令和 6 年 7 月 1 日～令和 6 年 11 月 29 日のうち 9 週間 ・実習時間は、原則として、8：30～16：30 <p>※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時配布資料を参照してください。</p>							日比、 高塚、 野内
評価方法 評価基準	※詳細については、実習要項を参照してください。							
学生への 助言等	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。実習は長期間にわたり、場合によっては夜間の実習もあります。健康管理には十分留意し、実習に取り組みましょう。皆さんが大きく成長する実習です。期待しています。							